

牛乳パックから一人で作る紙漉きの材料

職業技能クラフト班 牛乳パック切り（紙漉きの材料）

小出特別支援学校川西分校 野本 将

授業のねらい

雰囲気や周りの動作に惑わされず、質や時間を意識しながら集中して課題に取り組む。

指導プログラムの工夫

◎クラフト班では、材料づくりから製品作りまでの工程を分業し、任された工程に責任をもって取り組んでいる。初めて作業に取り組む1年生や細かい作業に困難がある生徒は、主に材料づくりの工程に取り組んでいる。単純な繰り返しの作業を担当することで、「一人で見通しをもって一連の活動ができる」「自分の仕事に責任をもって取り組むこと」を目指している。また、周囲の様子に左右され集中が途切れがちになる生徒が多いが、教室環境を整え、仕事内容や手順を明確にすることで、集中して課題に取り組めるように工夫した。

＜机上整理の習慣化＞

・仕事のスペースを確保せず作業を続ける生徒は、手にぶつかった物品が下に落ちたり、切ったパックが重なったりして、正しく作業ができない実態があった。（下の左図）作業スペースを確保することで、作業効率がアップできるよう練習に取り組んだ。

→両手の動く範囲の確認、動作が少なくなる物品の配置を一緒に相談して練習を重ねた。夢中になると机上整理ができなくなるので、その都度確認を促した。検定の評価票に該当する評価項目があることで、本人の意識が高まった。



初めの頃の様子



検定間近の様子

成果と課題

○一人で取り組めるよう教室の構造化（座席や物品の位置・導線の工夫）を図り検定の手順・目標を明確にすることで、自分から進んで取り組み達成感が得られ次への意欲も高まった。→卒業後の就労に向けた有効な力が身に付いた。

○スモールステップ（手順や注意点の明確化）の大切さに気付かされた。→作業が分かりやすく、達成感が得られやすい。

●検定基準の妥当性をどのように判断するかが難しいと感じた。→合格率が高すぎたり、生徒の実態に合わせて基準を変えたりすることは疑問が残る。

●一部分の工程を取り出しての検定であるので、生徒が活動の意義を感じているかは疑問である。→作業全体の見通しがもてると、さらに意欲が高まるのではないか。